

現場実習から就労へのつながり

～評価表と進路結果の関係性を考える～

新潟県立川西高等特別支援学校 細井 哲明



研究の動機

実習評価があるけれど、
もっと活用できないかい？



「進路指導の目安」にならないかい？
「新たな発見、通説の確証」があるかもよ。
「すべての評価集計」やったことないかも。
「評価と実態」分かるのは...今でしょ！

やってみよう！



研究の過程（構想）

3年時の就職希望生徒を対象
(H24～H30 前期)

評価表の合計点を一覧に書き込む

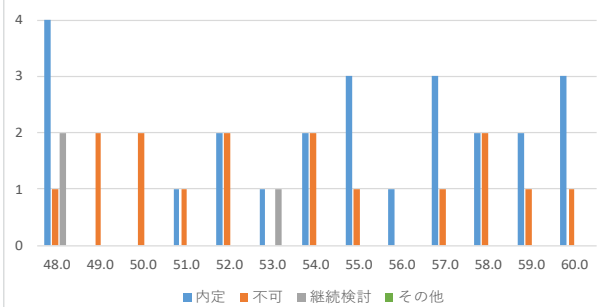
80%を基準に分布し確認

合計点からの傾向、就労可否・理由、
評価表の細目を検証



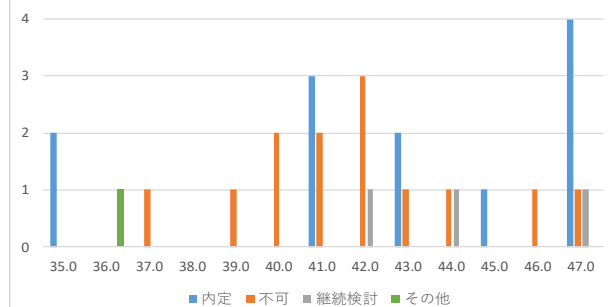
分布の結果①

評価合計のグラフ（80%以上）



分布の結果②

評価合計のグラフ（80%以下）



見えてきたこと

- ・ 80%以上の評価点
→ 必ず『内定』ではない。
- ・ 内定をもらった生徒
→ 80%以上が多い。
- ・ 基準点からの採用、不採用
→ 見えてくる状況、理由有。



進路実現に向けて

「休まない」、「真面目さ」、「素直さ」、「挨拶」、
「笑顔」等が大切。合計得点ではない！

進路決定時の調整ではなく、
毎日の学習が重要！

何を教え、育て、巣立たせるか

学校教育

